

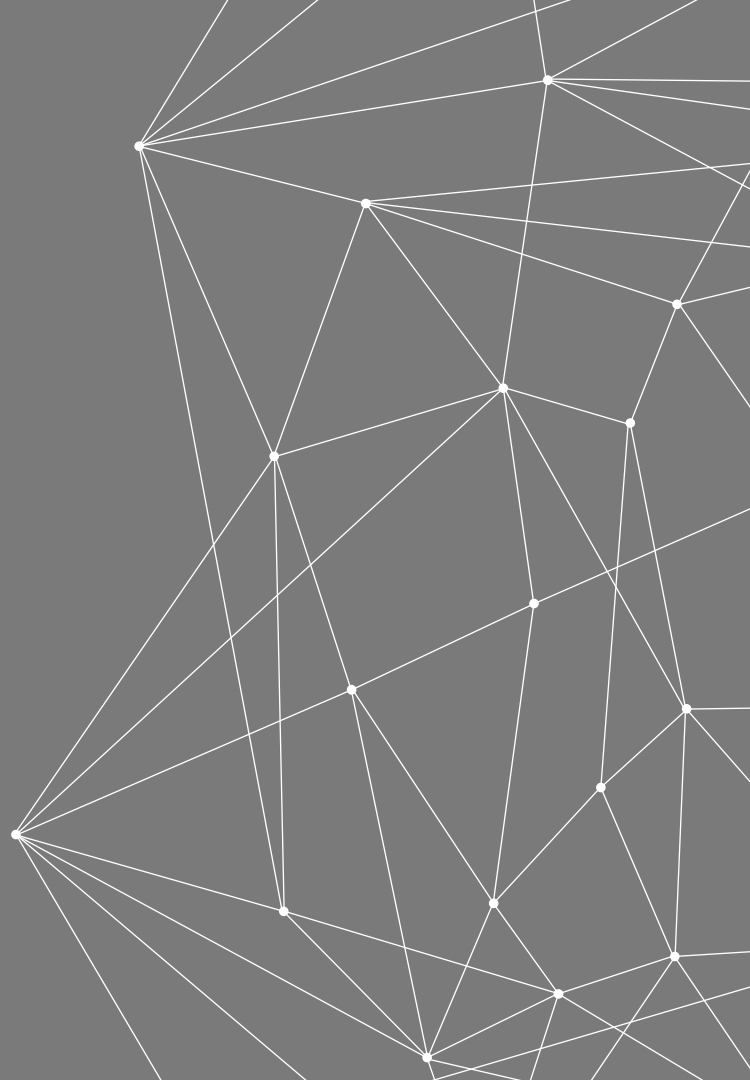


Fusic Co., Ltd.

2023年6月期 第3四半期 決算説明資料

株式会社 Fusic

2023.5





Fusic Co., Ltd.

1. 会社概要
2. 2023年6月期 第3四半期 決算概要
3. 通期業績予想
4. Appendix



Fusic Co., Ltd.

1. 会社概要
2. 2023年6月期 第3四半期 決算概要
3. 通期業績予想
4. Appendix



テクノロジーカンパニーとして、
技術と社会の架け橋となり課題解決に貢献する。

Fusion of **S**ociety, **I**T and **C**ulture.

人に**多様な道**を
世の中に**爪跡**を

“**Why**” we do. Mission (存在意義)

個性をかき集めて、
驚きの角度から世の中を
アップデートしつづける。

“**What**” we do. Vision (あるべき姿)



会社概要



会社名 株式会社 Fusic (フュージック)

取締役 代表取締役社長 納富 貞嘉
取締役副社長 濱崎 陽一郎
社外取締役 安浦 寛人

設立年月日 2003年10月10日

事業内容 Webシステム / スマートフォンアプリ開発
AI / IoTシステム開発
クラウドインフラ (Amazon Web Services)
プロダクト事業
コンサルティング (事業戦略・業務改革・IT・組織人事)

所在地 福岡本社
〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神4-1-7 第3明星ビル6F
TEL : 092-737-2616 FAX : 092-737-2617



代表取締役社長

納富 貞嘉

Noutomi Sadayoshi

九州大学大学院 システム情報科学府
知能システム学専攻修了

株式会社Fusic設立 取締役副社長
当社代表取締役社長（現任）



取締役副社長

濱崎 陽一郎

Hamasaki Yoichiro

九州大学大学院 システム情報科学府
情報工学専攻修了

株式会社Fusic設立 代表取締役社長
当社取締役副社長（現任）



取締役（社外）

安浦 寛人

Yasuura Hiroto

工学博士
京都大学工学部電子工学科 助教授
九州大学大学院システム情報学研究院 教授
九州大学理事・副学長，情報統括本部長（CIO）
国立情報学研究所（NII） 副所長（現任）



常勤監査役

栗林 絹江

Kuribayashi Kinue

野村證券株式会社
日本デジタル放送サービス株式会社（現スカパーJSAT株式会社）
株式会社イマジカ・ロボットホールディングス
（現 株式会社IMAGICA GROUP）
株式会社IMAGICA ティーヴィ（現株式会社WOWOWプラス）取締役
株式会社IMAGICA Lab.取締役



非常勤監査役

柏木 街史

Kashiwagi Machifumi

東京大学法学部卒業
UCLAビジネススクール（MBA）修了

NTTアメリカ 副社長
ポリコムジャパン株式会社
代表取締役社長
インターソフト株式会社 取締役社長
株式会社フォーモア 監査役（現任）



非常勤監査役

西原 隆雅

Nishihara Takamasa

東京大学法学部卒業

弁護士
西村あさひ法律事務所
アクセラレート法律事務所 代表（現任）
ETフロンティア株式会社 CEO（現任）



執行役員

経営企画本部 本部長

小田 晃司

Oda Koji

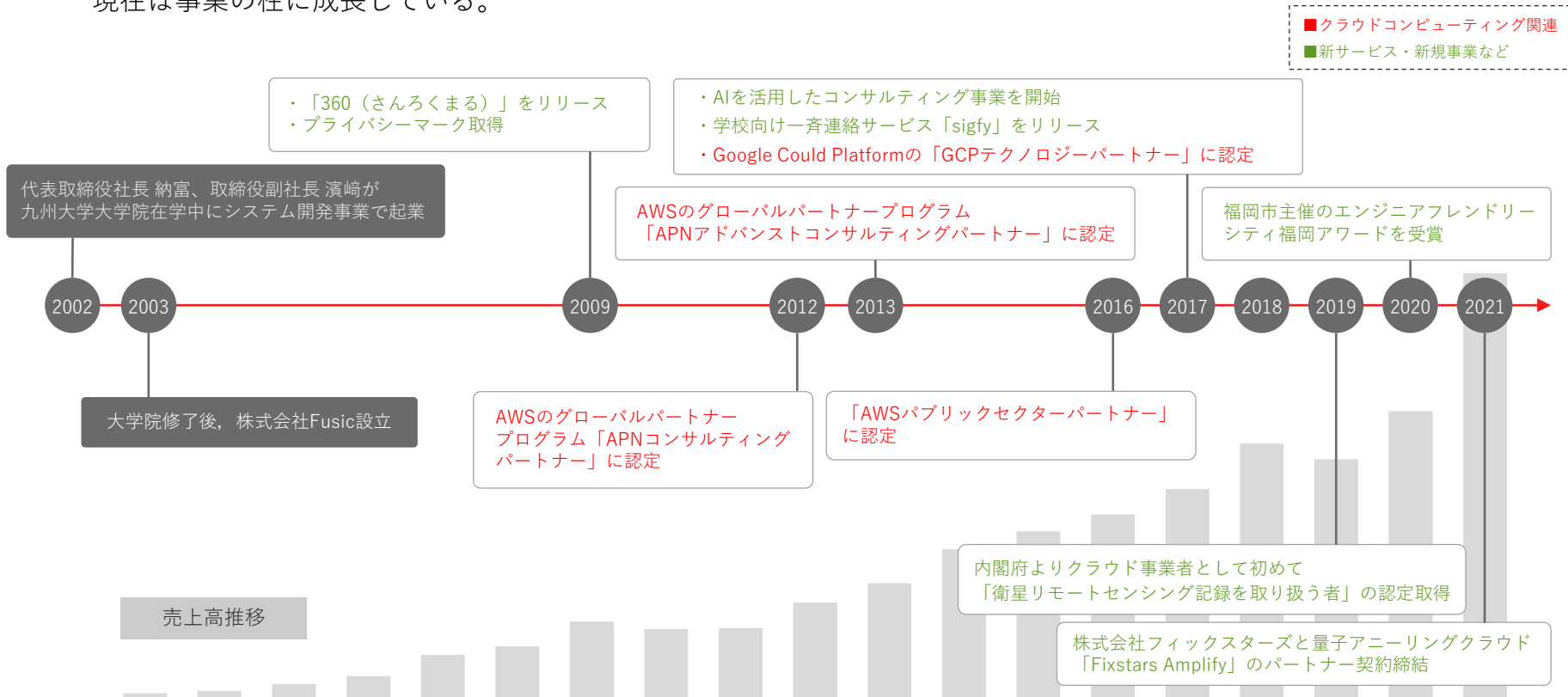
早稲田大学政治経済学部
国際政治経済学科卒業

公認会計士
PwC税理士法人
第一生命ホールディングス株式会社
株式会社地域経済活性化支援機構



沿革

創業者である納富、濱崎が大学院の学生時代に起業。その後2003年にFusicを設立。創業当初はシステム開発を手掛け順調に事業を拡大。並行してクラウドコンピューティングやAI等、新たな技術分野にも積極的に進出し、現在は事業の柱に成長している。





Fusic Co., Ltd.

1. 会社概要
2. 2023年6月期 第3四半期 決算概要
3. 通期業績予想
4. Appendix



2023年6月期第3四半期は前年同期比*で**増収増益**

業績予想に対しては**計画通りに進捗**

売上高

11.58億円

前年同期比
+35.0%

営業利益

1.54億円
(営業利益率：13.3%)

前年同期比
+36.2%

トピックス

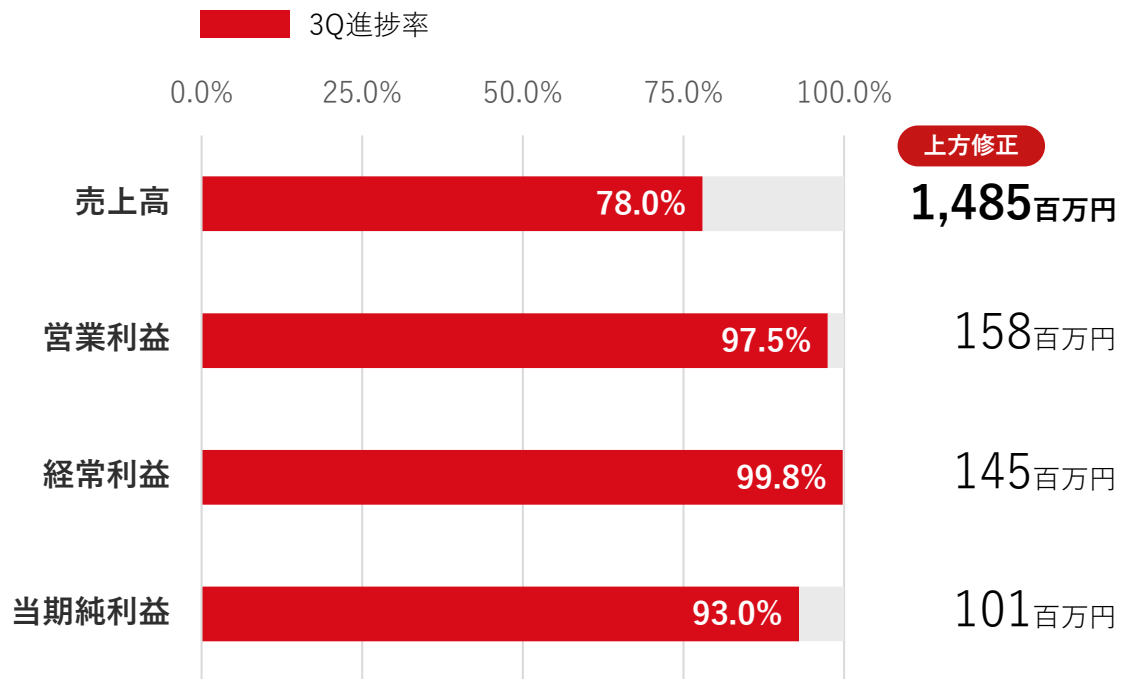
- 地域通貨アプリ案件、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）案件が牽引し、クラウドインテグレーションサービス売上高が前年同期比+35.5%と伸長。
- データインテグレーションサービス売上高も前年同期比+34.4%と伸長し、増収増益に貢献。

* 2022年3月期第3四半期の実績は監査法人による監査を受けていないため参考値



業績予想に対する進捗率

デジタル化への旺盛な需要を背景に、クラウドインテグレーション事業が拡大。売上高を従来の予想より153百万円(+11.6%)引き上げ、1,485百万円へ上方修正。



売上高上方修正

クラウドインテグレーション事業のうち、AWSリセールサービスの取引が特に拡大

営業利益以下は据え置き

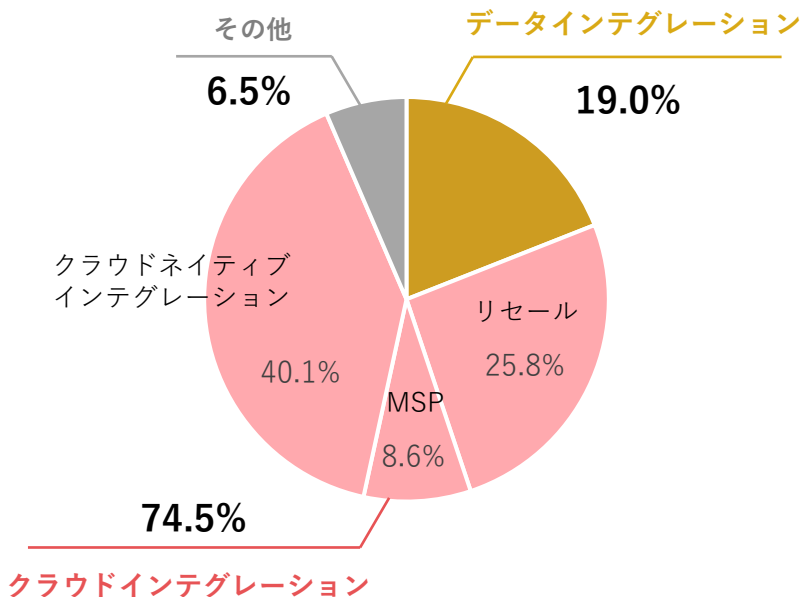
リセールサービスの売上割合上昇に伴う売上原価の上昇、中長期的な成長に向けた投資の実施による費用増加が予測されることより、営業利益以下の業績予想は期初計画を据え置く。



売上高

全てのサービスで受注高は順調に積みあがっており、2022年6月期を上回るペースで増加

サービス別売上高割合 (2023年3月末時点)



サービス別売上高・前年同期比

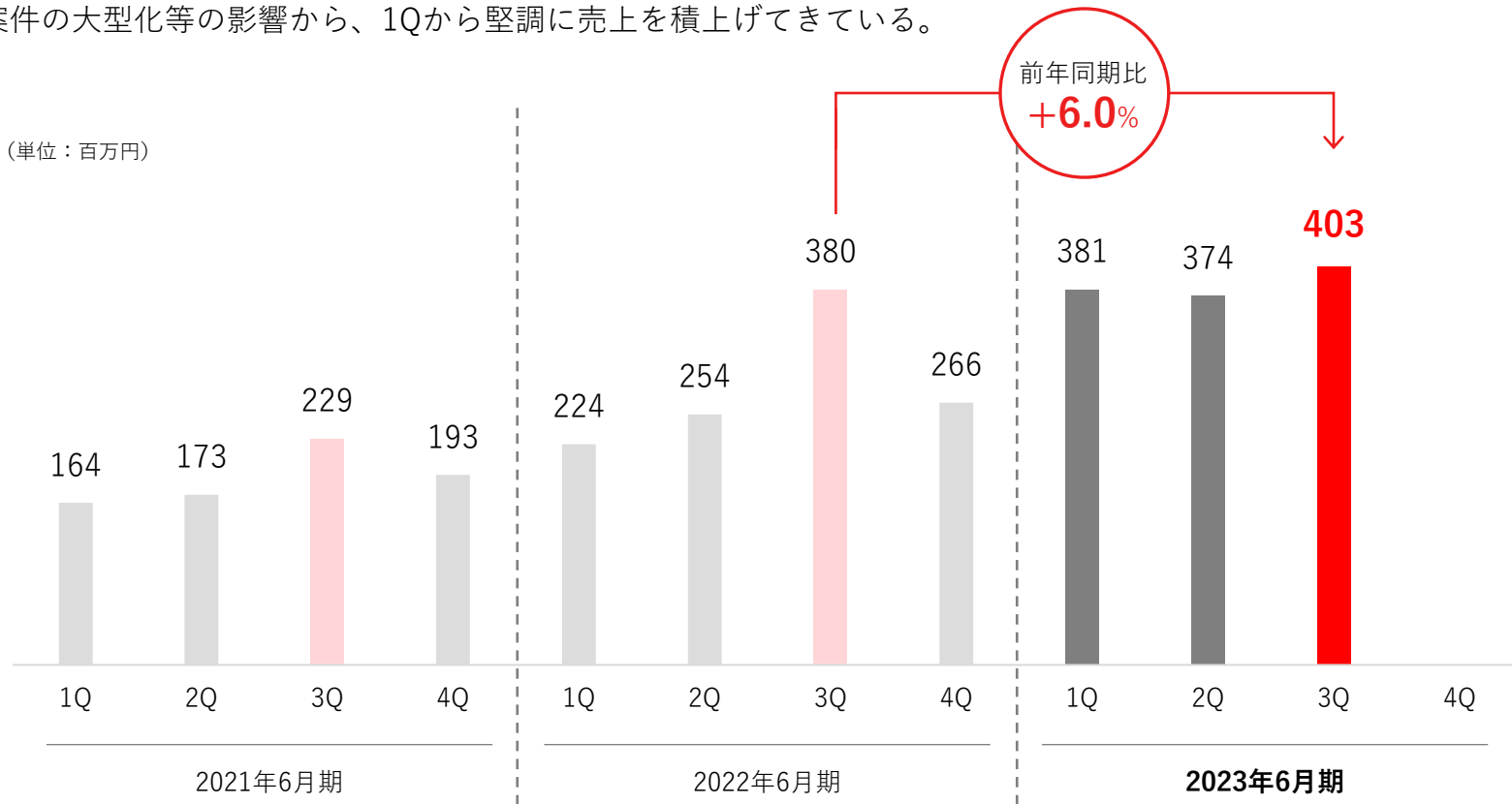
(単位：百万円)

全体		1,158	+35.0%
データインテグレーション		220	+34.5%
クラウド インテグレーション	リセール	299	+40.4%
	MSP	99	▲6.2%
	クラウドネイティブ インテグレーション	464	+46.2%
その他		75	+30.5%



売上高 四半期推移

当社傾向として、顧客の決算期末が多い3月を含む3Qは、売上高が進捗しやすいものの、23年6月期については案件の大型化等の影響から、1Qから堅調に売上を積上げてきている。

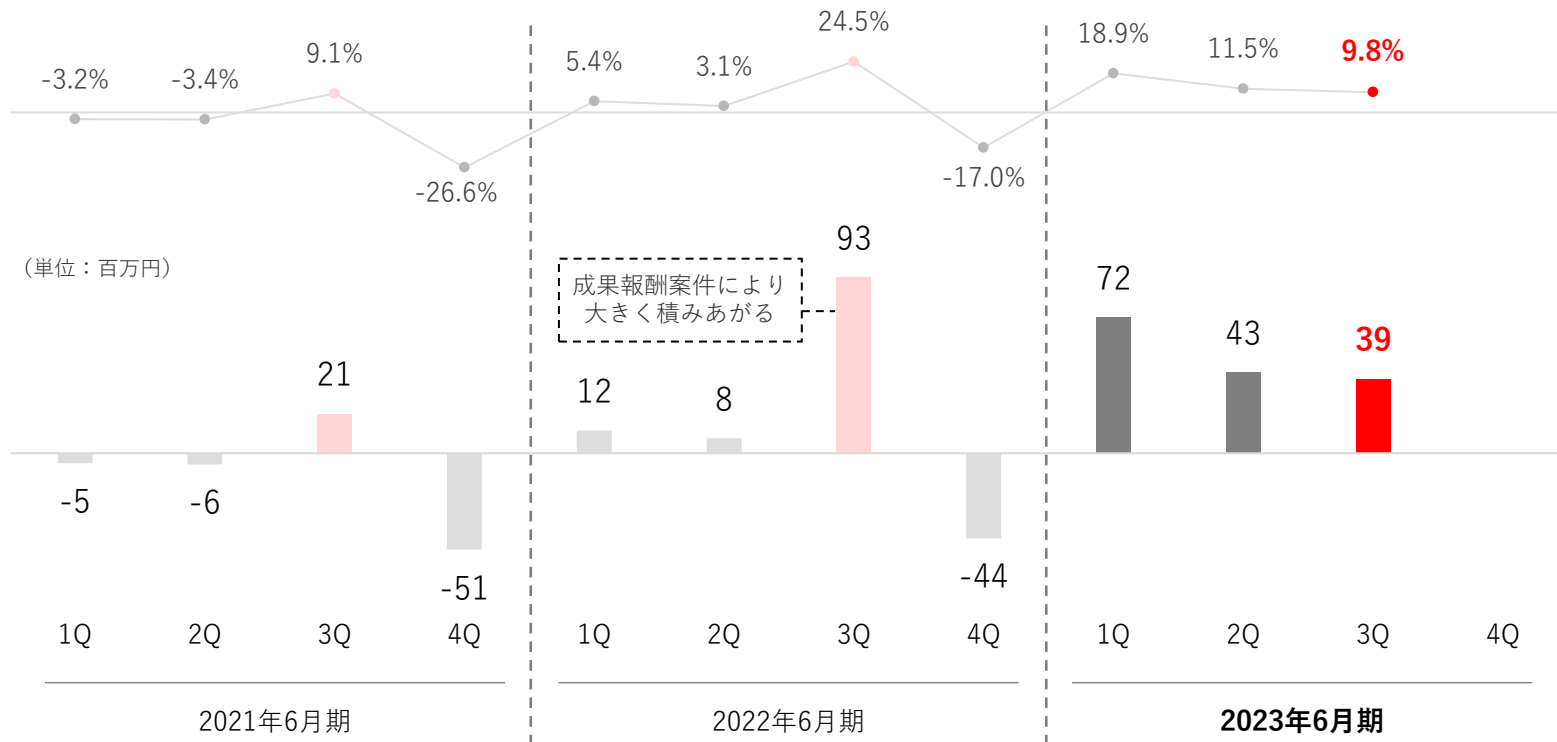


* 2022年6月期以前の実績は監査法人による監査を受けていないため参考値



営業利益・営業利益率 四半期推移

納品時期の関係で3月が含まれる3Qに利益が積みあがる傾向にあり、4~6月の4Qは次期への成長投資等より、会計期間別でマイナスになりやすい。



* 2022年6月期以前の実績は監査法人による監査を受けていないため参考値



損益計算書

(百万円)	2022年6月期 3Q累計実績	2023年6月期 3Q累計実績	前年同期比 増減額	前年同期比
売上高	858	1,158	300	+35.0%
データインテグレーション事業	163	220	56	+34.5%
クラウドインテグレーション事業	636	863	226	+35.6%
リセール	213	299	86	+40.4%
MSP	105	99	▲6	▲6.2%
クラウドネイティブ インテグレーション	317	464	146	+46.2%
その他事業	57	75	17	+30.5%
売上総利益 (売上総利益率)	344 (40.2%)	414 (35.8%)	69	+20.3%
販売費・一般管理費	229	243	30	+13.2%
営業利益 (営業利益率)	114 (13.4%)	154 (13.3%)	39	+34.4%
経常利益	115	144	29	+25.2%
当期純利益	71	94	22	+32.0%

* 2022年6月期3Q累計実績は監査法人による監査を受けていないため参考値



Fusic Co., Ltd.

1. 会社概要
2. 2023年6月期 第3四半期 決算概要
3. 通期業績予想
4. Appendix

2023年6月期 通期業績予想の上方修正について

クラウドデータインテグレーション事業の拡大等により、売上高を153百万円増加の1,485百万円に上方修正。
成長投資等のコストを見込むため、営業利益以下は従来予想通りに据え置く。

	2022年6月期 実績	2023年6月期 従来予想	2023年6月期 修正予想	修正後 対前期増減率
売上高	1,124	1,331	1,485	+32.1%
営業利益	70	158	158	+126.0%
営業利益率	6.2%	11.9%	10.9%	4.7pt
当期純利益	44	101	101	+129.9%



Fusic Co., Ltd.

1. 会社概要
2. 2023年6月期 第3四半期 決算概要
3. 通期業績予想
4. Appendix

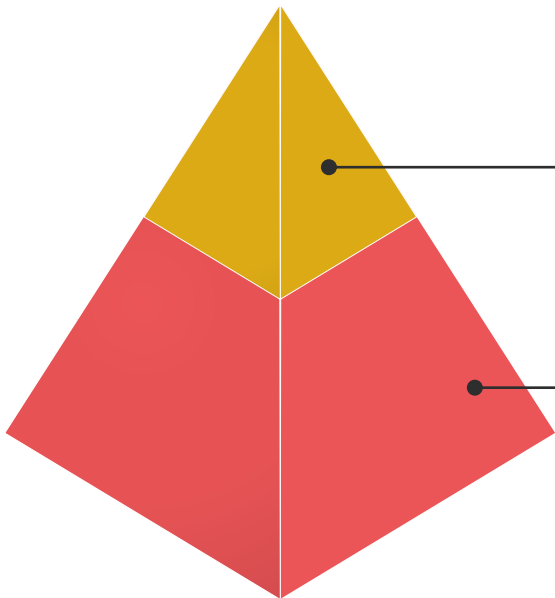
2023年3月31日開示「事業計画及び成長可能性に関する事項」より一部再掲



サービス区分および売上高

再掲

クラウド技術×ソフトウェア開発力による「クラウドインテグレーションサービス」およびデータの流通を円滑に進めるための「データインテグレーションサービス」を展開。



売上高 1,124百万円 (2022/6期)

データインテグレーション

売上高 197百万円 (17.6%)

AI/IoTを活用して、データを中心に据えたビジネスへの変革を支援

クラウドインテグレーション

売上高 851百万円 (75.8%)



クラウド技術を最大限活用した信頼性と使い勝手を両立したシステムを提供

その他

売上高 74百万円 (6.7%)





サービス別売上比率

再掲

フロー型の「クラウドインテグレーション」とストック型の「リセール」・「MSP」間のアップセルの流れ、「データインテグレーション」「クラウドインテグレーション」間のアップセルの流れを拡大することで、全体的な売上向上を図っている。

(2022/6期実績)		売上高 (百万円)	売上比率	ビジネスモデル/課金体系	
データ インテグレーション		197	17.6%	フロー型	IoTやAIを使ったデータ収集・分析 プロジェクトに応じ、請負または準委任契約でサービスを提供
クラウド インテグレーション	リセール	292	26.0%	ストック型	AWS等パブリッククラウドの販売 利用状況に応じた従量課金
	MSP	138	12.3%	ストック型	システムおよびクラウド環境の保守運用 準委任契約の運用支援
	クラウドネイティブ インテグレーション	420	37.4%	フロー型	クラウド環境構築やシステム開発 プロジェクトに応じ、請負または準委任契約でサービスを提供
その他		74	6.7%	ストック型 フロー型	主に自社プロダクトサービス（後述） プロダクトは月額課金、都度課金の料金体系 顧客のニーズに合わせたカスタマイズ開発
合計		1,124	100%		



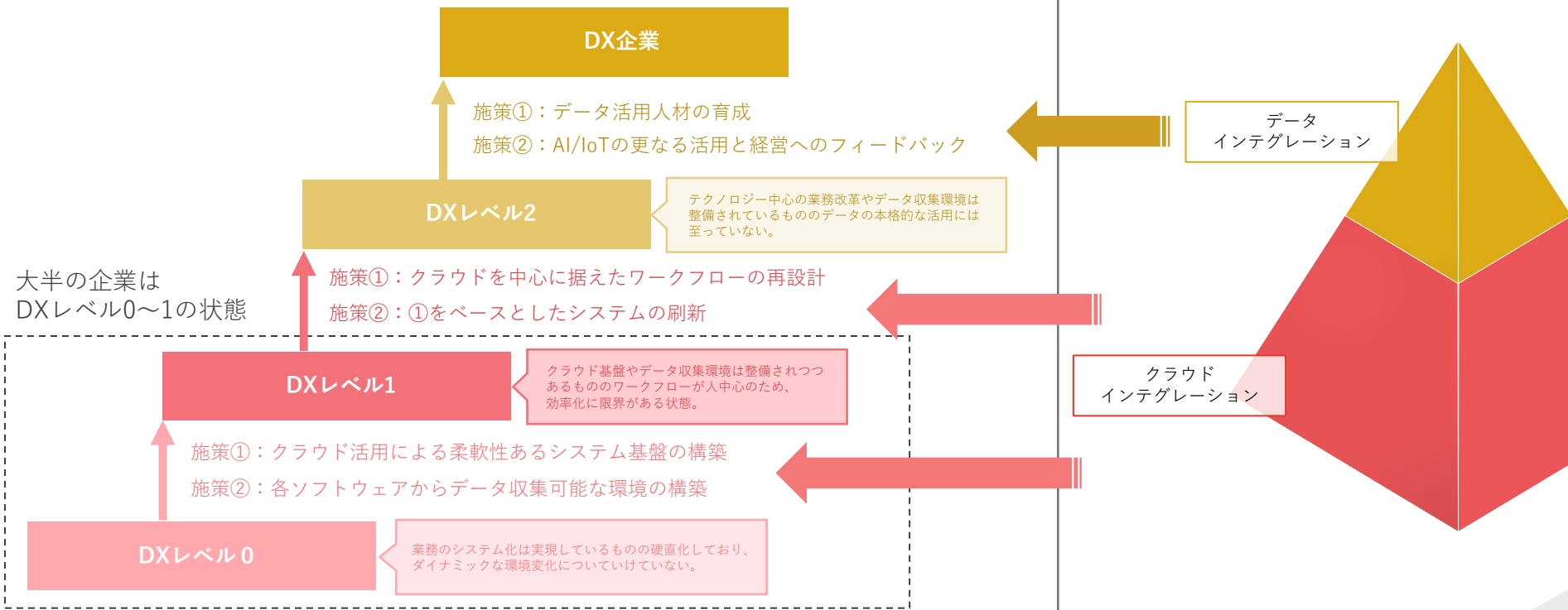
日本のDX推進における課題と当社の事業領域との関係性

再掲

日本の競争力向上にDXは必須であるものの、未だ9割以上の企業がDXレベル0またはレベル1(※)に留まっている。当社は、クライアントのDXレベルを各段階において上位へ引き上げるサービスを展開。

日本のDXにおける課題

当社の事業領域

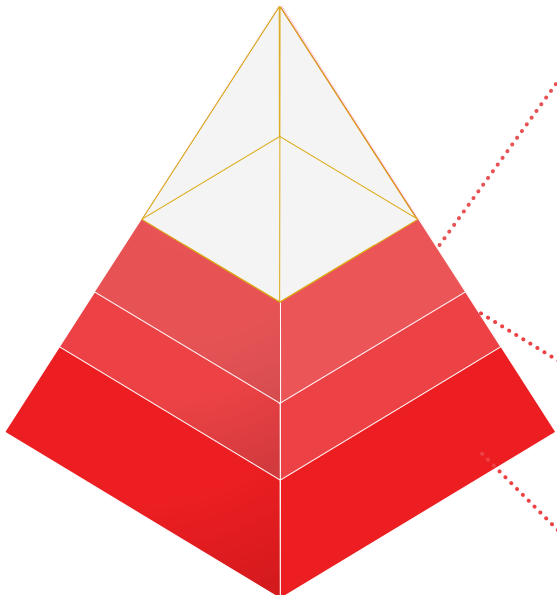




クラウドインテグレーションサービス概要

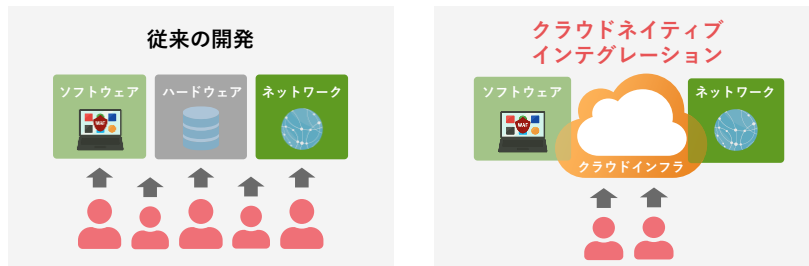
再掲

AWSを活用したサーバインフラの構築・運用から、AWSのマネージドサービスを活かしたシステム開発を展開。クラウド専門ベンダーにはないソフトウェア・インフラ・ネットワーク一体となった信頼性の高いシステムを提供。



1. クラウドネイティブインテグレーション

AWSのマネージドサービス×ソフトウェア開発力による信頼性と開発効率を両立したシステム構築。



2. MSP(Managed Service Provider)

クラウド技術×当社独自ツール(※)による安定したインフラ運用を効率的に実現。

※ 死活監視ツール、利用金額モニタリングツール等、クラウド利用を前提とした運用監視ツールを当社が独自に開発

3. リセール

AWSビジネス知識×提案力による顧客ニーズに細かく対応したクラウド環境を提供。特に学術・研究機関から強い支持を受けている。

AWSを大規模に提供するとともに、クラウド上にその特性を最大限活かしたシステム開発も併せて行った事例。

文部科学省CBTシステム (MEXCBT)

MEXCBT：文部科学省が推進する、児童生徒が学校や家庭においてオンライン上で学習できる公的CBT (Computer Based Testing) プラットフォーム

MEXCBTコンソーシアムの筆頭企業である(株)内田洋行から委託を受け**全国の児童生徒、教員が利用するオンライン学習システムのインフラ環境構築**を実施。**2.4万校、770万人**(令和4年12月現在)が登録する大規模システム。

サブシステムを複数の段階に分けてリリースするため、AWS環境のバージョン管理としてIaC(※1)を導入。



※1：Infrastructure as Codeの略で、サーバなどのシステムインフラの構築をプログラミングコードを用いて行うこと

九州大学 AWS Direct Connectを用いたホームページ(HP)のAWS移行

オンプレミスで運用されていた九州大学のHPは、ハードウェアの調達/管理/更新に課題があった。当社でAWSでの運用を提案し、管理・更新の運用負荷削減に成功。さらにAWSとSINET(※2)クラウド接続サービスを接続し、セキュアなネットワークを実現。**旧帝国大学で初のクラウド導入事例**となった。



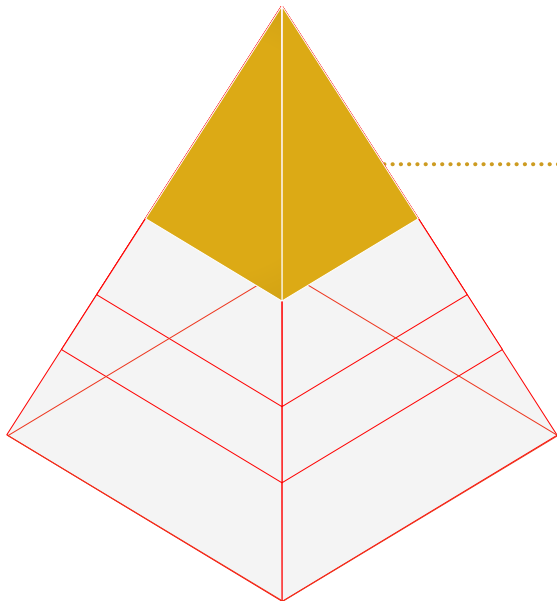
※2：日本全国の大学、研究機関等が学術情報基盤として利用する情報通信ネットワーク



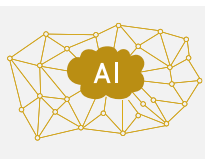
データインテグレーションサービス概要

再掲

AIやIoTを駆使してデータの収集や解析を高度に行うデータインテグレーションサービスを展開。
IoT・クラウド・AIを柔軟に組み合わせて顧客の業務効率化や企業価値向上をトータルでサポート。



OUTPUT : AI/ビッグデータ解析



- ・他社BIツール(※1)を活用したデータ可視化
- ・AIによるモデル作成
- ・MLOps (※2) (継続的なAI開発/運用)

STORE : クラウドデータ保管



- ・AWSによる大量データの保管
- ・解析に適したデータ変換

INPUT : IoTシステム開発



- ・IoTデバイスの選定
- ・データ収集システムの構築
- ・独自ツールによる負荷テスト

データの流れ

※1: 企業が持つ様々なデータを分析・見える化して、経営や業務に役立てるソフトウェア
※2: 精度の高いAIモデルを管理・運用・改善するための環境や開発手法



データインテグレーションサービス開発事例

再掲

AIとクラウド技術を高度に組み合わせた事例と、AIモデルを継続的に改善し持続的に活用する事例。

国立研究開発法人理化学研究所 言語アセスメント機構の構築

理化学研究所革新知能統合研究センター自然言語理解チームにおいて、開発した言語アセスメント推論を社会で活用していくため、**広く人間の言語活動を自動評価するAIの機能を構築**。また学習モデルを継続的に展開するために**最適なAI運用及びクラウド環境設計のコンサルティング**を実施。



株式会社 ゼンリン 地図開発研究のためのMLOps(※)環境構築

株式会社ゼンリンでは、AIを活用した地図作成の研究開発をしており、当社にてその**AIの継続的な運用と改善の機構をAWS上で実現**。さらにユーザインタフェースで機械学習モデルを管理できるウェブアプリケーションも開発。



※：精度の高いAIモデルを管理・運用・改善するための環境や開発手法



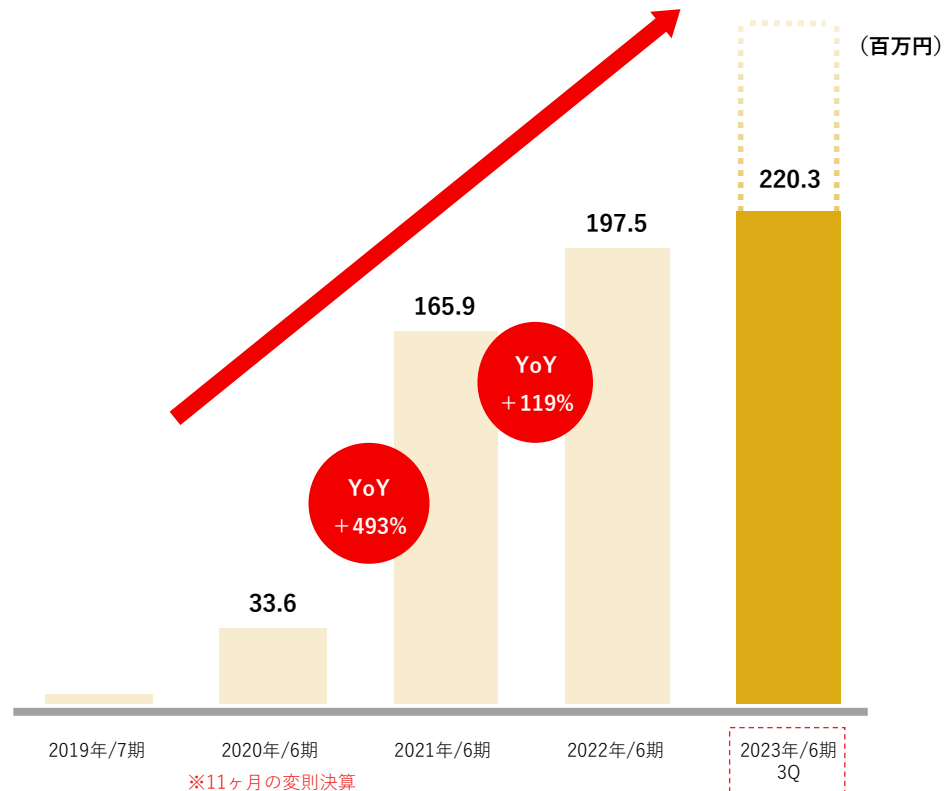
データインテグレーションサービスの実績

データインテグレーションサービスの高い成長性

2018年7月期より着手したデータインテグレーションサービスが、2020年6月期から、順調に立ち上がり成長中。

PoCの積極的な取り組みから実装化へと繋げ、収益機会を拡大させる流れが加速している。

2023年6月期においても、第3四半期累計時点で売上高が2022年6月期通期売上高の約111.5%に到達。





その他：自社プロダクト

再掲

顧客の要望に合わせて開発したシステムから汎用性の高いものをサービス化して提供。多くの企業や組織への導入実績を有している。今後もサービス拡大を図ると共に、サービス運営で得られた知見を他事業へ還元する。



360度評価特化型人事評価サービス

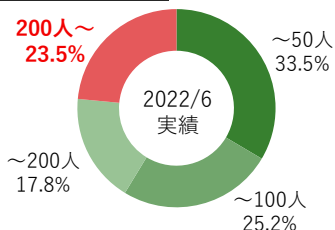
多面評価
(360度評価)
に特化した
SaaS

評価項目や
尺度は独自に
設定可能

個別の
カスタマイズも
柔軟に対応

業種・規模に依らない導入実績

1社あたりのユーザID数



累計**1,000社以上**が導入。
近年は大手企業の導入が
増加傾向に。



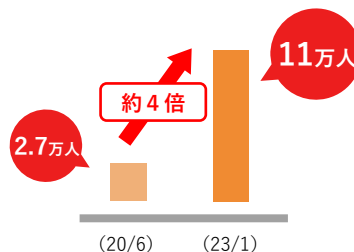
学校向け連絡サービス

コンセプト
「学校連絡を
もっと楽にシ
ンプルに」

学校と保護者を
つなぐ連絡ツール

LINE連携・
集金機能を完備
学校生活の様々な
シーンに対応

圧倒的なユーザ伸長率



教育DXを追い風に2.5年
でアクティブユーザが
約4倍に。

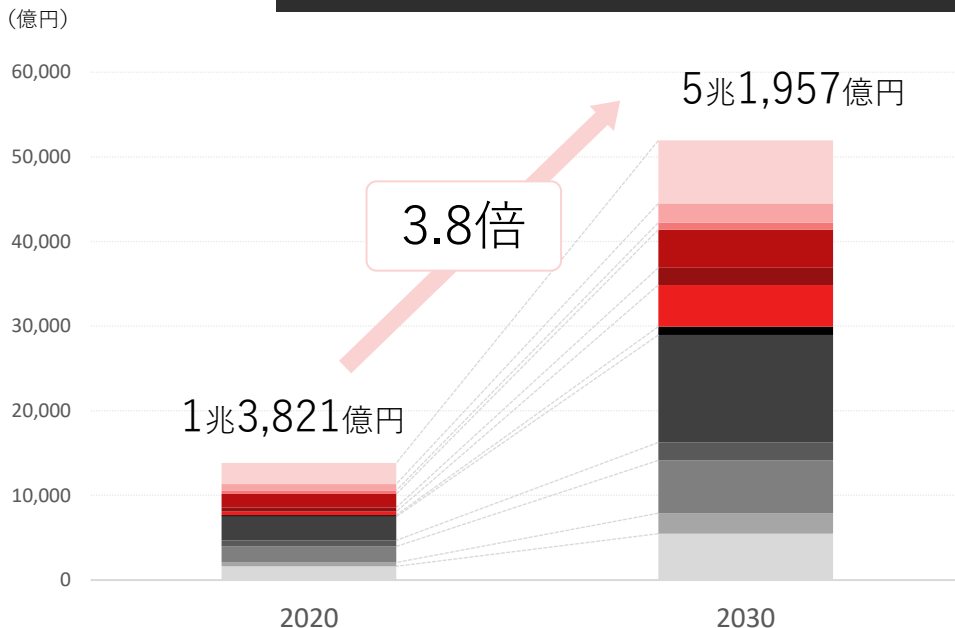


市場動向 1：日本のDX市場は5.2兆円に（2030年度予測）

再掲

DX(※)は事業効率化や地政学的リスク回避などの目的から、企業や組織の重要課題として位置づけが高まっており、日本におけるDX市場規模は、2020年度1.4兆円から、2030年度には5.2兆円と3.8倍に拡大する見込み。特に、パブリックセクターである「自治体」においては、12.0倍と高い成長が見込まれている。

DXの国内市場（投資金額）



出典：富士キメラ総研「2022 デジタルトランスフォーメーション市場の将来展望 市場編」

業界別DXの拡大見込 （2020年度実績～2030年度予測）

戦略／基盤	3.0倍
コミュニケーション	3.0倍
カスタマーサービス	2.0倍
営業・マーケティング	2.9倍
社会インフラ	4.2倍
自治体	12.0倍
不動産	4.4倍
交通／運輸	4.6倍
医療／介護	2.9倍
金融	3.3倍
流通／小売	5.6倍
製造	3.4倍

※DX（デジタルトランスフォーメーション）：デジタル技術で新しいビジネスの仕組みを構築して競争力を高めること

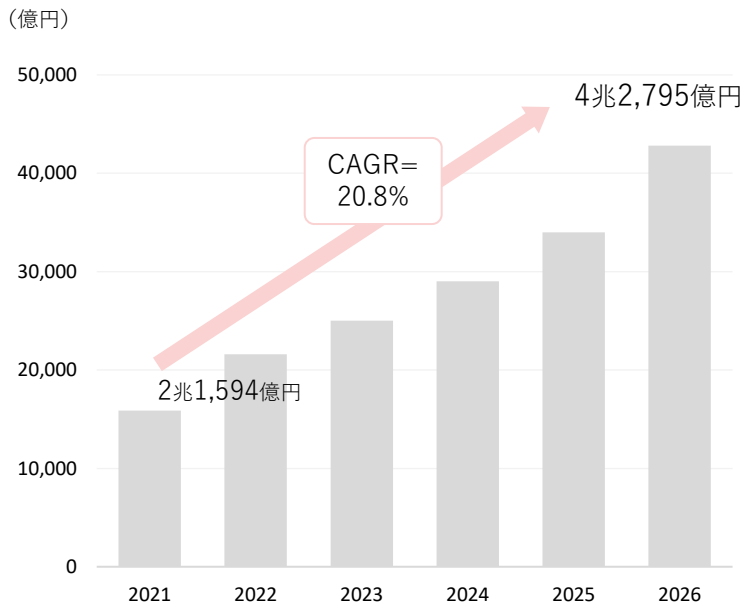


市場動向 2：パブリッククラウド市場

再掲

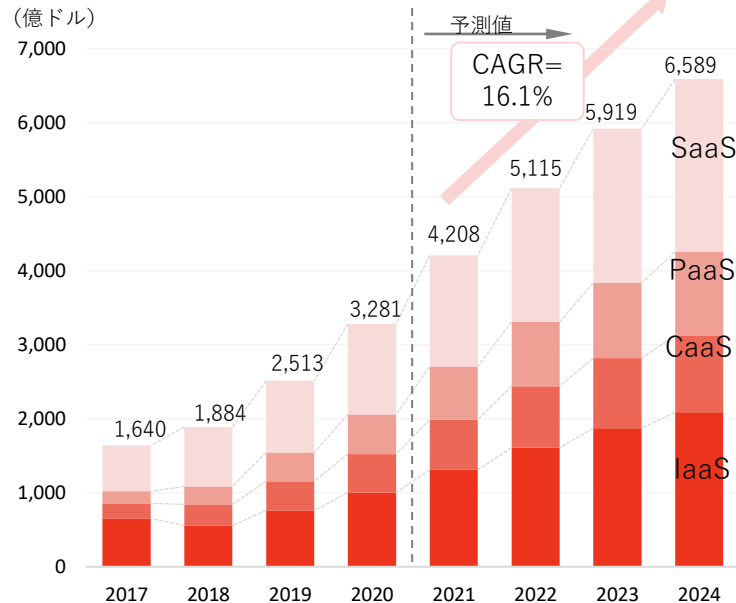
DX実現に向けてクラウド活用は重要な要素に位置付けられている。国内のパブリッククラウド市場は、CAGR=20.8%で成長し、**2026年には4兆2,795億円に達すると予想されている。**

国内パブリッククラウドサービス市場 売上額予測



出典：IDC Japan プレスリリース「国内パブリッククラウドサービス市場予測、2021年～2026年」（2022年9月15日）

世界のパブリッククラウドサービス 市場規模（売上額高）の推移及び予測



出典：総務省「令和4年版 情報通信白書 ICT白書」

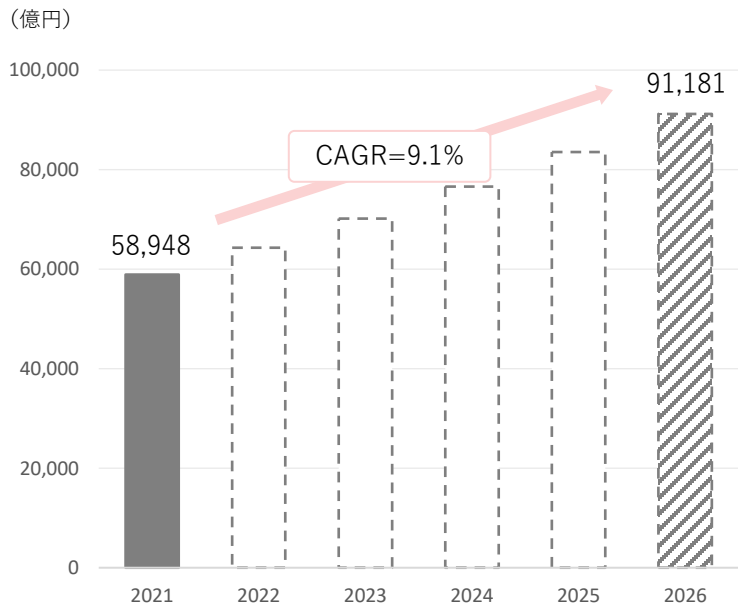


市場動向 3 : IoT、AIビジネス市場

再掲

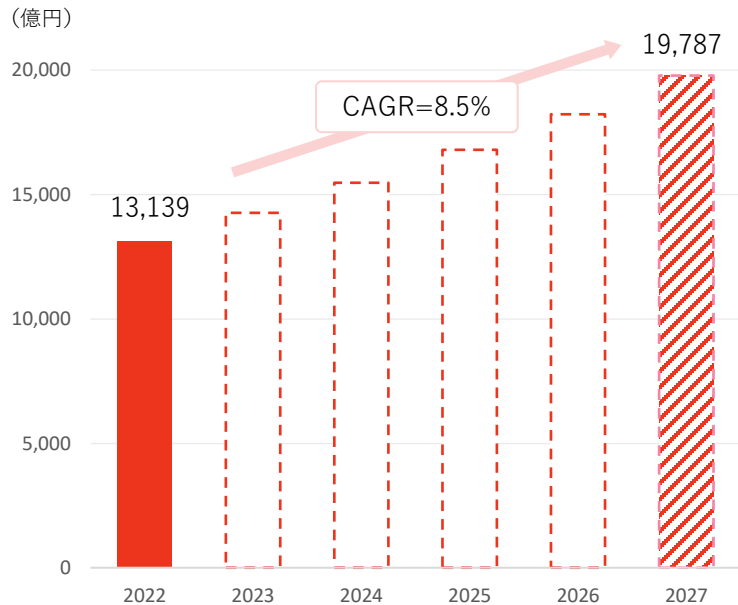
日本のIoT市場は2021年に5兆8,948億円であったが、その後CAGR=9.1%で成長し2026年には9兆1,181億円に達するとされている。また国内AIビジネス市場は2022年に1兆3,139億円から、CAGR=8.5%で成長し2027年には1兆9,787億円に達するとされ、当社のデータインテグレーション事業市場は十分な拡大余地がある。

国内IoTビジネス市場予測



出典：IDC Japan プレスリリース「国内IoT市場の産業分野別/テクノロジー別市場予測」（2022年4月4日）

国内AIビジネス市場予測



出典：富士カメラ総研「2022 人工知能ビジネス総調査」



新技術に取り組む土壌

創業時からエンジニアの自由な技術習得時間を確保し、技術評価制度、資格取得支援、開発合宿など積極的に新たな技術を育む土壌を形成。

技術結合力

育まれた新たな技術と既に獲得済みの技術を複合的に連結させることで他社にない技術競争優位を獲得。それを活かしたビジネス機会を創出。

展開力

業界や業種、エリアを問わず、当社のワンストップソリューションが最大限価値発揮する市場を選択。当該市場におけるシェア拡大を目指す。

クラウド技術（AWS）やAI等、**市場の黎明期から研究・事業化を行うことで先行者優位性を確保。**

「ソフトウェア×クラウド×AI/IoT」のように**掛け合わせることで希少性が増すワンストップソリューションを提供。**

変化が緩やかな学術研究機関等の公的機関や、大手企業が価値発揮しにくいエリアを選択することで**独自のポジションを確保。**

優位性



新技術に取り組む土壌

再掲

創業当初より新技術への探求を奨励する仕組みを設け、エンジニアが興味ある技術分野へ積極的に取り組むことを後押ししてきた。それにより**新たな技術に常に目を向けチャレンジする文化を醸成**してきた。

技術探究を奨励する様々な制度

技術評価制度

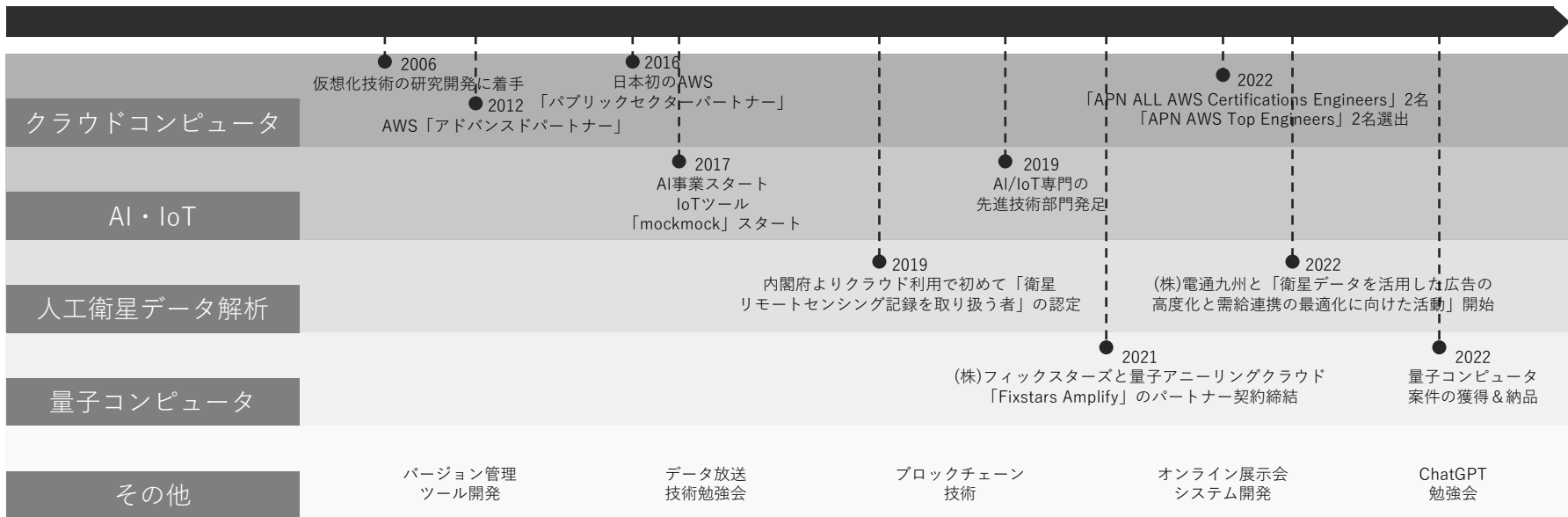
半期に一度、技術分野での活躍を棚卸し、3つの分野でそれぞれMVP・MGPを表彰

エンジニア開発合宿（4回/年）

日頃興味があるが手を付けることが出来ない技術に、職場からも離れてチーム単位で取り組む

わくわく費用制度

年間100万予算を確保
試してみたいデバイス等を購入可

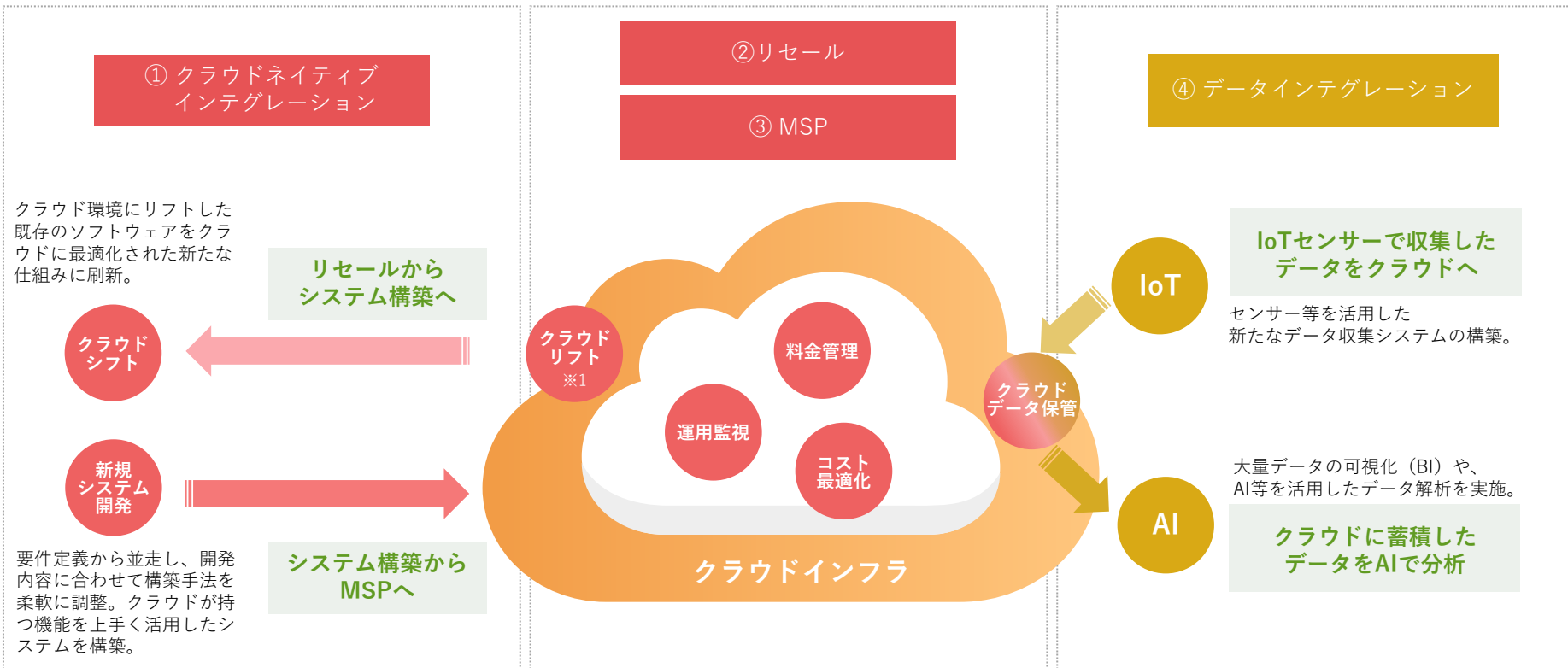




技術結合力

再掲

クラウドインテグレーションサービス（①②③から構成）とデータインテグレーションサービス（④）
においては相互に様々なシナジーを保持している。



※1：既存システムはそのままだにオンプレミス（※2）の環境からクラウド上にシステムを移行すること

※2：サーバ機器などのハードウェアおよびソフトウェアを自社の管理する施設内で運用・管理すること



サービス展開力：パブリックセクター

再掲

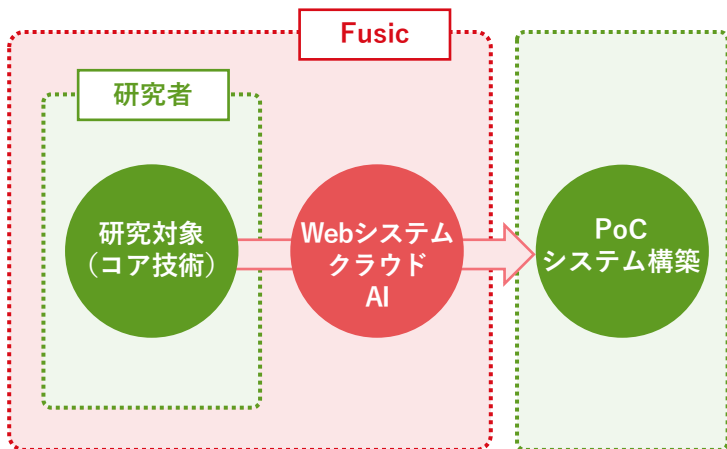
「新技術に取り組む土壌」と「技術結合力」によって蓄積したノウハウとして、取り組み業界や業種を問わず取引先を拡大し、柔軟な対応力で実績を拡大している。

■パブリックセクターに対する展開ケース

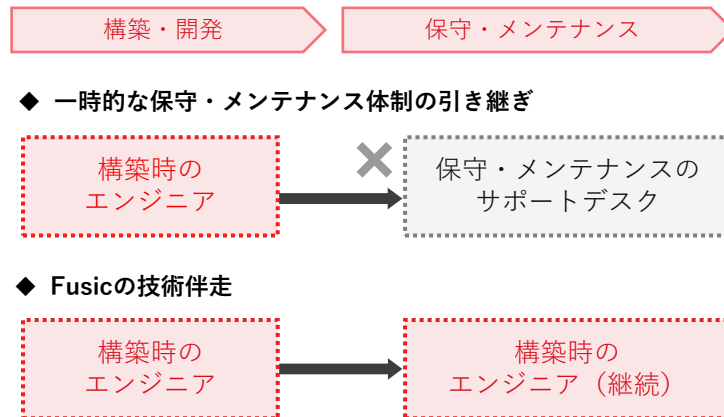
AWSを用いたシステム構築の提供だけでなく、**クラウドの特徴（従量課金、後払い等）を踏まえて、大学等の学術・研究機関の調達プロセス、入札プロセスに準じたクラウド提供を実施**しており、従来の物品・役務対象の調達への適用方法や仕様設定のノウハウを提供している。

また、**研究目的と研究対象（コア技術）を理解し、コア技術を中心に、研究者と伴走しながら、実証実験（PoC）やシステム構築**を提供している。システム構築後の保守・メンテナンスも、構築時のエンジニア体制で継続的に対応し、対応レベルを下げることなく、研究者に伴走している。

コア技術を中心とした研究者の伴走



システム構築後の保守メンテナンス



◆ 一時的な保守・メンテナンス体制の引き継ぎ

◆ Fusicの技術伴走



サービス展開力：新規事業支援

再掲

「新技術に取り組む土壌」と「技術結合力」によって蓄積したノウハウとして、取り組み業界や業種を問わず取引先を拡大し、柔軟な対応力で実績を拡大している。

■DX市場に対する展開ケース

クラウド技術やAI/IoT技術を軸に幅広い技術を有する当社は、九州を中心に地域企業のDXを支援している。当社の特徴であるWebシステム、クラウド、AIを結合させ、ワンストップでのシステム構築を提供している。また、**システム構築にとどまらず、顧客目線で業務整理を行い、サービス企画・設計段階から参画**し、事業の成長に貢献している。

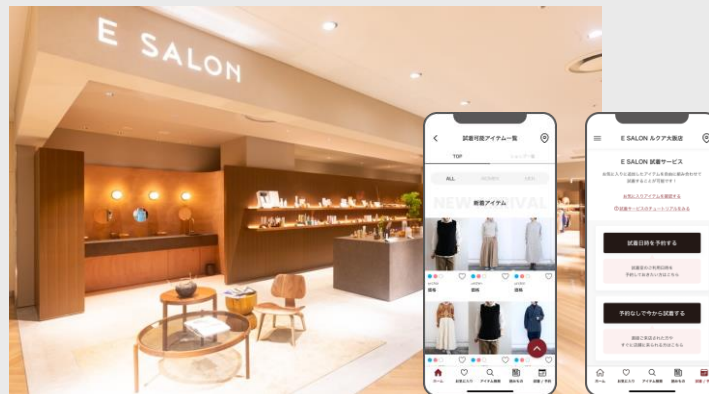
事例1：AI顔認証によるオンライン学科配信システム

自動車教習所の**オンライン学科教習に対応する日本初のシステム**を開発。オンライン学科教習の課題をAI技術を活用して解決。クラウドのメリットを最大限に活かしたサーバレスな環境で、今後の拡大に対応できる構成に。日本初のオンライン学科配信システムとして**100校以上の自動車学校で活用**されている。



事例2：アパレル業界の新たな購買体験を提案

ブランドの垣根を越えたプライベートフィッティングサービスの「E SALONアプリ」を開発。**サービスのオペレーション、UI/UX設計など企画の段階から参画し、開発運用まで、トータルで支援**。参画ブランドは50社以上で、これまでメディア露出は500以上。これまでにない購買体験を提供することで、新たな購入客の獲得に繋がっている。

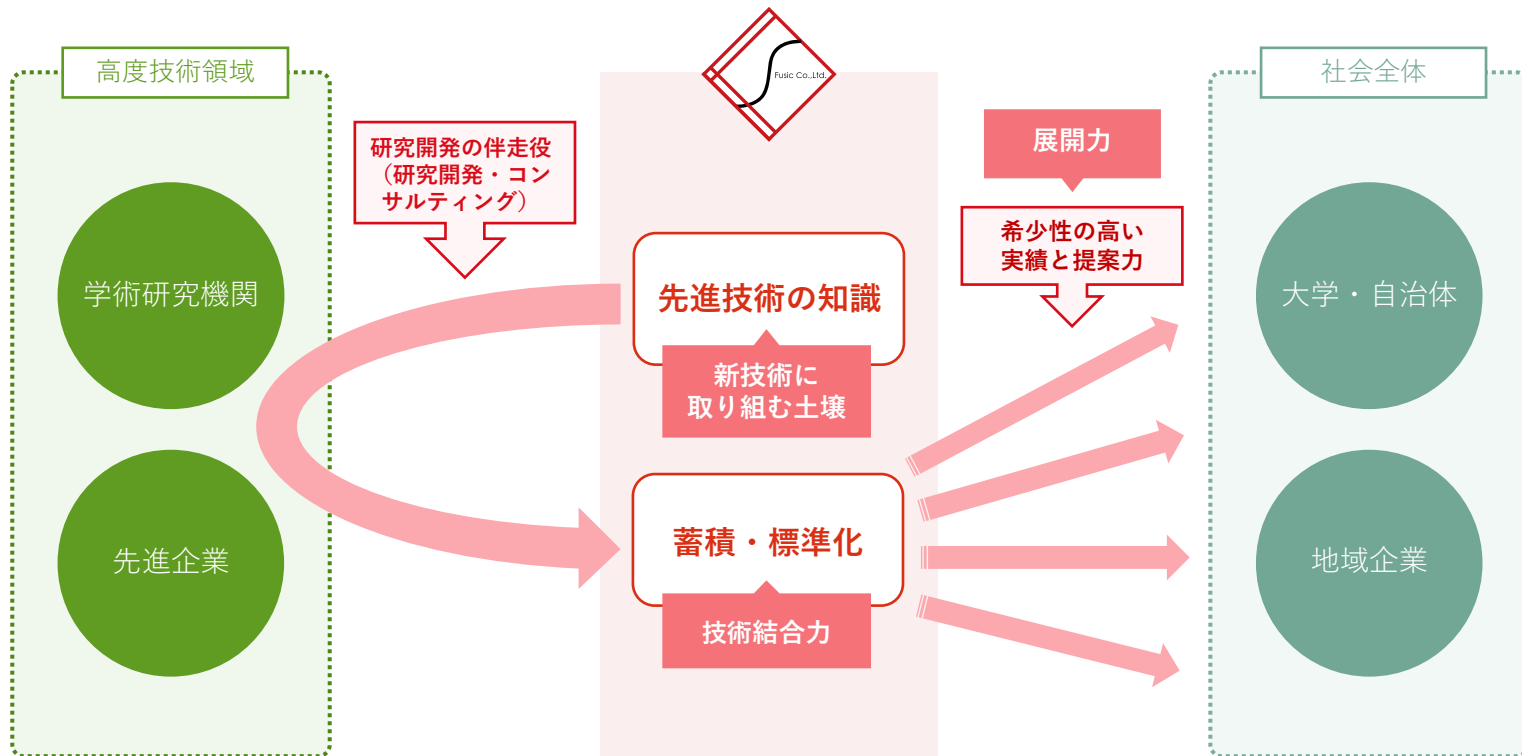




競争力（価値）発揮の流れ

再掲

学術研究機関や企業の先端技術分野の研究開発に高い専門性と提案力を武器に伴走し、**そこで得た先進技術の実績と知見を、全国の大学・自治体や九州・福岡の地域企業を中心に展開**する流れを推進。それ以外にも業種・エリアに関わらず社会全体のDX推進に貢献。





成長戦略の全体像

再掲

データ人材の拡充とそれに伴うデータインテグレーションサービスの拡大。新たな産業分野への進出。
それらをより広範に展開するためのセールス&マーケティング人材の拡充。





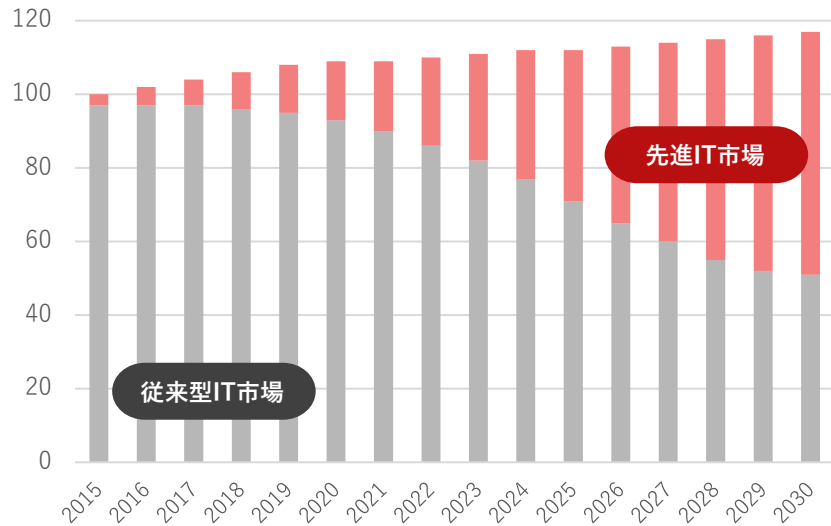
「組織」・「事業」×「質の向上」：データインテグレーションサービスの拡大

再掲

今後、DXはシステムの刷新からデータ活用に主戦場が移ると想定される。当社のデータインテグレーションサービスへの需要の高まりが見込まれる。データ活用人材の育成と拡充を行うと同時に、当該サービスの拡大による事業の高付加価値化を目指す。

IT関連市場の構成変化

(2015年の市場を100とした時の市場規模)

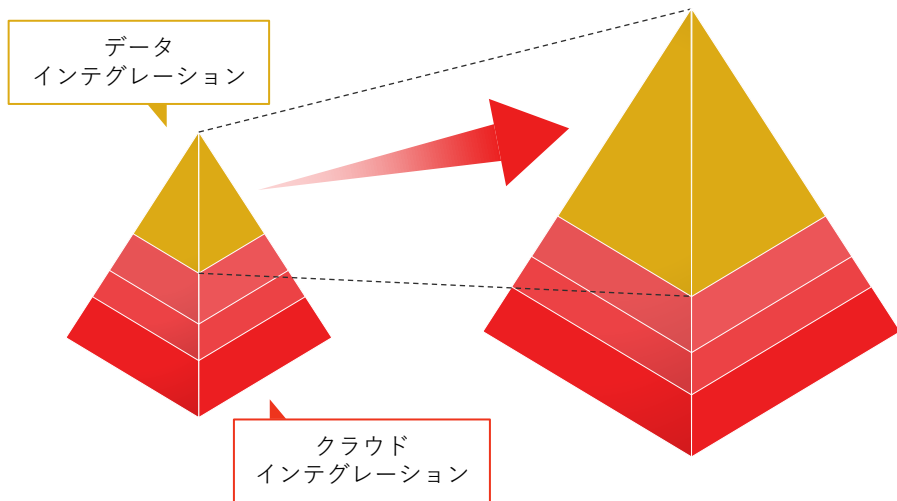


引用元：2019年4月 経済産業省 情報技術利用促進課「IT人材に関する調査」

2022/6期

1,124百万円
(197百万円)

3~5年後計画





「事業」 × 「規模の拡大」：新たな技術領域への進出

再掲

クラウドインテグレーションサービスにおいては、量子コンピュータ分野に、データインテグレーションサービスにおいては、人工衛星データの利活用に進出する。既に着手済みの領域であり、積極投資をすることで当社がフォーカスする市場の拡大と収益向上を図る。

クラウドインテグレーション注力分野

量子コンピュータ（量子アニーリング/イジングマシン）分野への取り組み

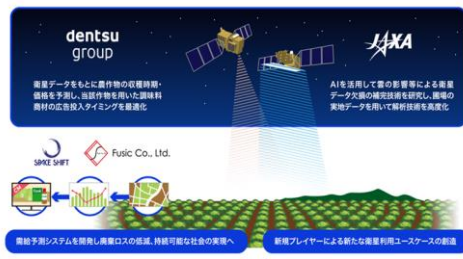
国内の量子コンピュータ分野で有数の実績を持つ株式会社フィックスターズが提供する量子コンピューティングプラットフォーム「Fixstars Amplify」とパートナー契約を締結（2021年）。今後市場の拡大が期待される量子コンピュータ分野、特に組合せ最適化問題への取り組みを加速させる。



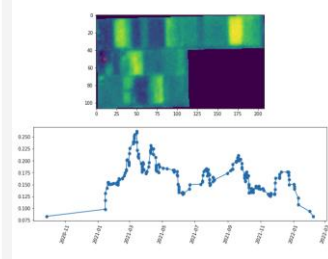
データインテグレーション注力分野

人工衛星データ利活用の取り組み

2019年に内閣府から「衛星リモートセンシング記録を取り扱う者」の認定をクラウドを活用したシステムとして初めて取得するなど、早期に取り組みを始めている。人工衛星データ（光学画像、SAR(※)画像）を用いて、地域の農業協働組合等とデータの解析の実証実験等に着手。今後拡大が見込まれる人工衛星データ解析の分野において、積極的な取り組みを行っていく。



©電通グループ/JAXA



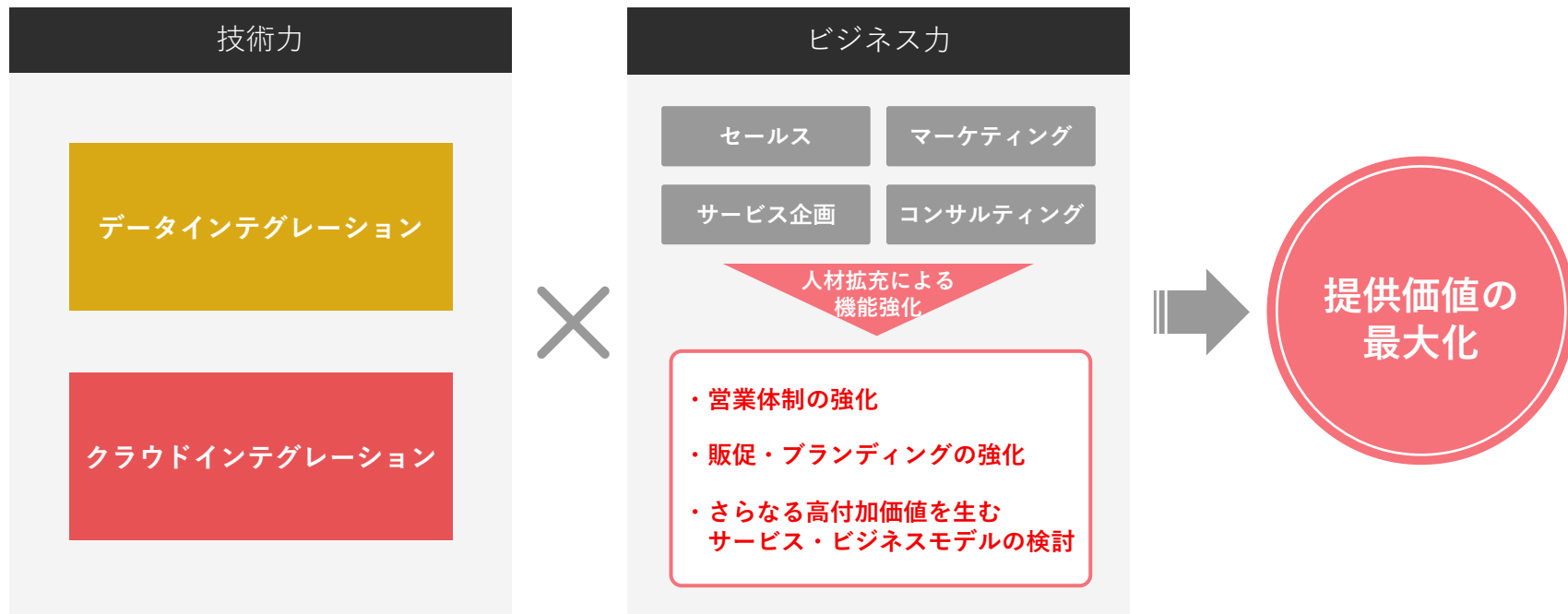
※マイクロ波を地表面に斜めに照射し、地表面からの後方散乱波を受信する能動型センサー



「組織」 × 「規模の拡大」：セールス・マーケティング人材の拡充

再掲

これまでの当社はエンジニア主体で事業成長してきた。今後の更なる成長のため、セールス・マーケティング等に携わるビジネス人材の拡充を行い、当社の技術力が生み出す社会への提供価値を最大化するため機能強化を進める。





「事業」 × 「規模の拡大」：新たなエリアへの進出

再掲

学術研究機関や先進企業の研究開発で先進的な取組を積極的に行い、実績をいち早く積み、全国展開を行ってきた。今後は首都圏・九州地区を中心に売上規模を拡大させつつ、**海外取引も拡大すべく**調達資金を人材獲得に投資する。

2011/7期

181百万円

九州地区 (73.1%)

首都圏 (26.8%)

その他 (0.1%)

2022/6期

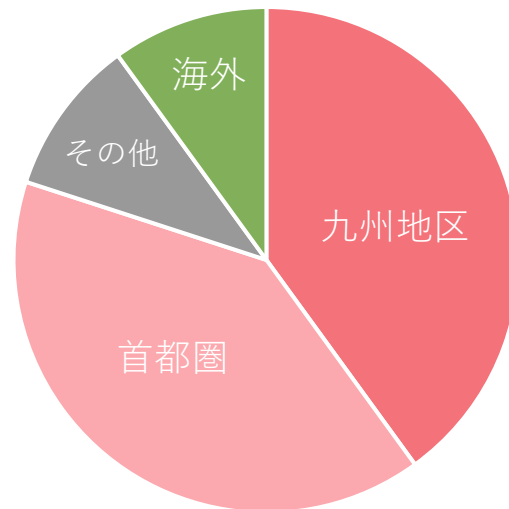
1,124百万円

九州地区 (44.5%)

首都圏 (46.9%)

その他 (8.6%)

3~5年後計画





主要な経営指標

更なる成長に向けた投資と利益確保の両立を目指すため、データインテグレーションにおけるプロジェクトの付加価値を高め、高単価化を目指すと共に、事業効率性を向上させて高利益率化を目指していくため、営業利益成長率を主要な経営指標としてモニタリングしていく。また、事業成長に向けて人材採用も積極的に行う。

	2022年6月期 実績	2023年6月期 予想	2024年6月期 目標
営業利益 成長率	— (+108百万円) 21.6期は成長投資を行い、 営業利益がマイナスのため 利益成長率の記載は省略	+126% 成長投資の結果、売上拡大に 伴い、営業利益は大きく伸長 する見通し	+25%以上 更なる成長に向けた投資と利 益確保の双方を両立すること で25%以上の成長率を目指す
データインテグレーション 売上成長率	+17.6%	+37.7% (※)	+25.0%以上
従業員数 (期末時点)	82 (+14%)	90 (+10%)	+20%以上



本資料の取り扱いについて

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれております。業界動向及び事業内容について、本資料日付時点における予定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。

これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性、その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。従って、当社の実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。



Fusic Co., Ltd.

